

# 有機栽培ほ場の土壌実態調査(その1)

## ～栽培履歴について～



写真1 土壌断面



写真2 土の硬さの計測



写真3 土壌のサンプリング

表 有機栽培ほ場における主な施用資材と栽培品目

利用形態	主な有機質資材等					主な栽培品目		
露地畑	鶏ふん	EM生ゴミ堆肥	もみ殻	油粕類	緑肥	ショウガ	根菜類、葉菜類	など多品目
施設畑	鶏ふん	牛ふん堆肥	EM生ゴミ堆肥	もみ殻	油粕類	トマト類	ニラ	その他季節野菜
樹園地	鶏ふん	菜種油粕	有機質肥料			ユズ	クリ	ブシュカン
水田	稲わら	米ぬか	魚粉					水稻

有機栽培では、使用できる資材が限られているため、特定の資材が長期間連用される傾向があります。このため、土壌の養分状態に不均衡を生じてしまう恐れがあります。

そこで、平成30年度から令和2年度にかけて、高知県内の有機栽培歴3年以上のほ場を対象に、土壌実態調査を実施しました。調査地点数は、露地畑52地点、施設畑15地点、樹園地20地点、水田4地点で、生産履歴の聞き取りと土壌の理化学性を調査しました(写真1～3)。

ここでは、生産履歴のとりまとめ結果を紹介します。

水田を除く多くのほ場で家畜ふんが使われており、その中でも鶏ふんを連用するほ場が多くありました。その他、露地

畑や施設畑ではEM生ゴミ堆肥や油粕類が使用されていました。また、露地畑では、作の間にソルゴー等の緑肥を利用するほ場もありました。栽培品目では、輪作や一つのほ場で多品目を栽培する土地利用の方法が多く見られました。樹園地のユズ栽培では毎作、鶏ふん、菜種油粕、有機質肥料の決まった施肥体系が継続されていました(表)。

今回の調査から、多くのほ場で鶏ふんを中心とした家畜ふんが連用される実態が明らかとなりました。家畜ふんを連用すると、リン酸の蓄積やpHの上昇を招きやすいとされていることから、今後、施用資材との関係に注目しながら、土壌の理化学性を検討していく予定です。

(土壌肥料担当 糸川修司 088-863-4915)